

毎日新聞

【2012年10月26日付】



貝殻など、さまざまな漂着物を採取する白幡小の児童



漂着物から海や地球環境を学ぶ
鎌倉で横浜の小学生
横浜市立白幡小（永池啓子校長）の4年生109人が25日、鎌倉市の由比ヶ浜海岸を訪れ、浜辺の漂着物から海や地球環境について学んだ。愛や優しい気持ち、思い思いの色や形で表現する絵画「愛の海の生き物」を描いており、絵を立体

化させるために材料を採取するの目的。
海洋自然保護活動に携わる画家、井上文太さんの指導を受けながら海岸を歩き、漂着物を集めた。深田紗希さん(10)は「いろいろな形の貝殻がたくさんあった。ごみは少なかった」と話していた。

【松永東久】

4年生が、前期の愛の海の生き物を描く活動に続き、井上文太さんと鎌倉（由比ヶ浜）に行き活動しました。今後は、海岸で拾った材料を用いて立体の造形物を作製します。海について、地球の環境について考えるきっかけとなりました。